
多職種連携により学習支援として

多感覚学習を導入した限局性学習症の一例

公立陶生病院

言語訓練室
小児科

関 記子
加藤 英子



日本小児精神神経学会 COI 開示

筆頭演者：公立陶生病院 関記子

日本小児精神神経学会の定める利益相反に
関する開示事項はありません

背景

- 限局性学習症（以下、SLD）の支援には医療・教育・福祉の連携が不可欠。
 - 病院でのアセスメントを元に、学校と連携して特性に即した学習法を実践できる例は少ない。
 - 通院頻度は限られるため、学校や放課後等デイサービス（以下、放課後デイ）と連携し、日常の学習場面に活かすことが重要。
- 今回、多感覚学習を学校の学習時間に導入した症例を報告

症例

【症例】 小学5年生 女児。特別支援学級（以下、支援級）在籍。

【主訴】 平仮名の拗音や、漢字の読み書きが難しい。

【現病歴】 2年生から支援級に在籍。平仮名や漢字の読み書きに困難があり、教科書の音声読み上げ等の配慮がされていた。

会話は年齢相応、理科・社会は通常学級で授業を受けており、4年生時に先生から受診を勧められ、市の障がい者支援センターに相談して当院受診。

初期評価 〈5年生 5月〉

- 全般的知能： 全検査IQ 74
- 読み書き： 読み、書き、全て
-2SD以上低下
- 語彙力： 学年平均
- 音韻認識： 2SD以上 時間延長
- 視覚認知： 視知覚(VPI) 58
- 視覚記憶： 平均 ~ -1SD
- 音声言語記憶： -1.5 SD以上低下

視覚、音声、どちらも低下があり、
多感覚学習(触読学習)を提案

全般的知能	WISC-V	全検査	74
		言語理解	78
		視空間	94
		流動性推理	91
		ワーキングメモリ	71
		処理速度	73
読み書き能力	読み書きスクリーニング検査 STRAW-R	流暢性 単語(ひらがな)	+2SD以上延長
		文章	+2SD以上延長
		音読 1文字(ひらがな)	<-2SD (17/20)
		単語(ひらがな)	<-2SD (15/20)
		書取 1文字(ひらがな)	<-2SD (12/20)
		単語(ひらがな)	<-2SD (1/20)
語彙力	抽象語理解検査	聴覚／指さし	学年平均
音韻認識	ELC	3モーラ逆唱 反応時間	2SD以上延長
視覚認知	WAVES	目と手の協応全般指数	69
		視知覚指数	58
視覚記憶	Rey複雑図形	遅延再生	平均~-1SD
音声言語記憶	AVLT	遅延再生	<-1.5 SD

支援経過

5年生	5～12月	初期評価。平仮名読み書き練習、ビジョントレーニング実施
	1月	多職種での会議で評価結果の共有と、多感覚学習の提案
	2月～	多感覚学習(触読学習)を支援級で実施
6年生	7月	
	8～10月	学習面の再評価
	11～3月	平仮名特殊音節の読み書き練習を継続
	1月	中学校入学に向け、多職種での会議を実施
	3月	リハビリの介入終了

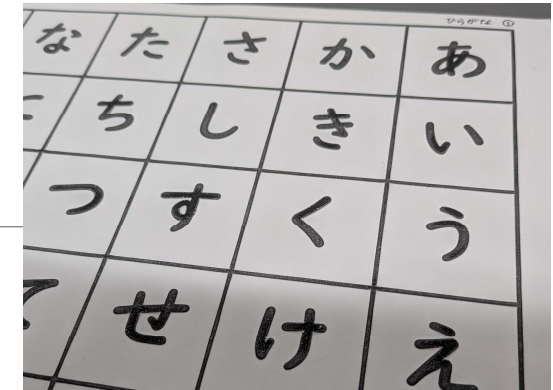
多職種での会議① 5年生1月〈介入8か月後〉

【学習面の評価の共有、学習方法の連携】

- 参加者： 支援級担任、障がい者支援センター担当者、
小児科医師、ST、母
- 内容： 学習面の評価結果の共有。効果的な学習方法について
多感覚学習の触読学習を提案。
学校で触読学習を実施し、通院時に学習状況を確認する体制にした。

多感覚学習の実施 〈介入9か月後〉

【触読学習： 触るグリフ】



学習方法： 凸状の文字を、見ながら触れて音読する。

ひらがな、カタカナ、の1文字～単語

漢字(1、2年生)、短文

学校で10～20分／日、3～4回／週

病院で月2回、学習の状況の確認、触読学習



宮崎圭佑ら．触読版を利用した多感覚学習による読み書き機能と呼称速度の促進作用について．
認知神経科学，2024，Vol. 26 No. 3+4，p. 105-115．

多感覚学習の実施 〈触読学習導入6か月後〉

【触読学習： 触るグリフ】

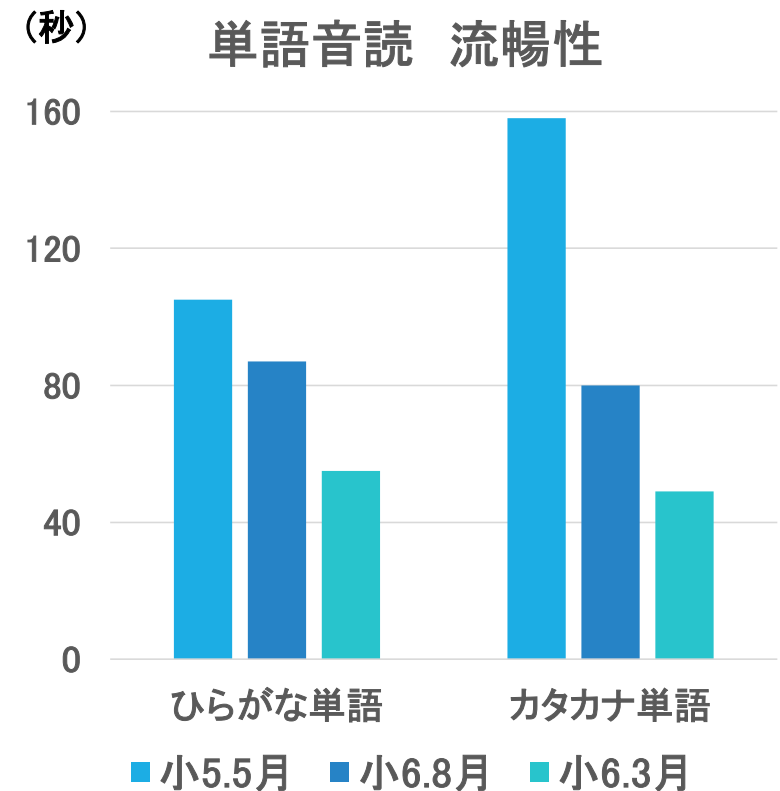
結果： ひらがな、カタカナ、漢字（低学年）での読み書きの
流暢性、正答率が向上。特にひらがなの書き取りで向上あり。
ひらがなが読めるようになり、ルビがある文章が読めるようになった。

→ 本児の好きな、アニメの原作漫画（ルビあり）を読むように勧め、
漫画を読む量が増加。

学習面の評価 〈初期 - 触読学習後 - 終了時〉

音読 流暢性 (STRAW-R)

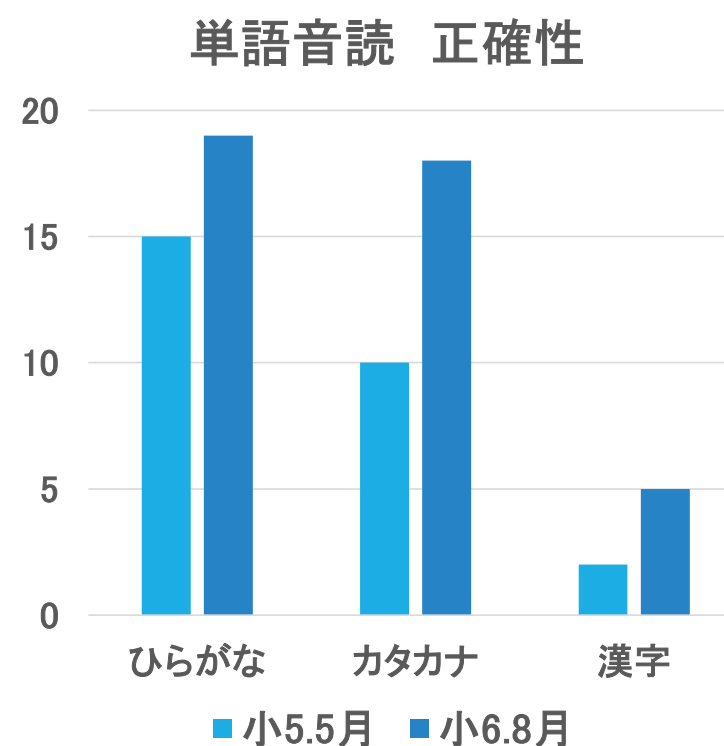
- ひらがな、カタカナ単語の音読は、初回評価時は逐次読みだったが、速度が向上し、単語のまとまりで読める場面が増加した。



学習面の評価 〈初期 - 触読学習後〉

音読 正確性 (STRAW-R)

- ひらがな、カタカナ、漢字単語の音読では、正確に読める単語が増加。
- 漢字126単語の音読課題では、7語から38語へ向上。

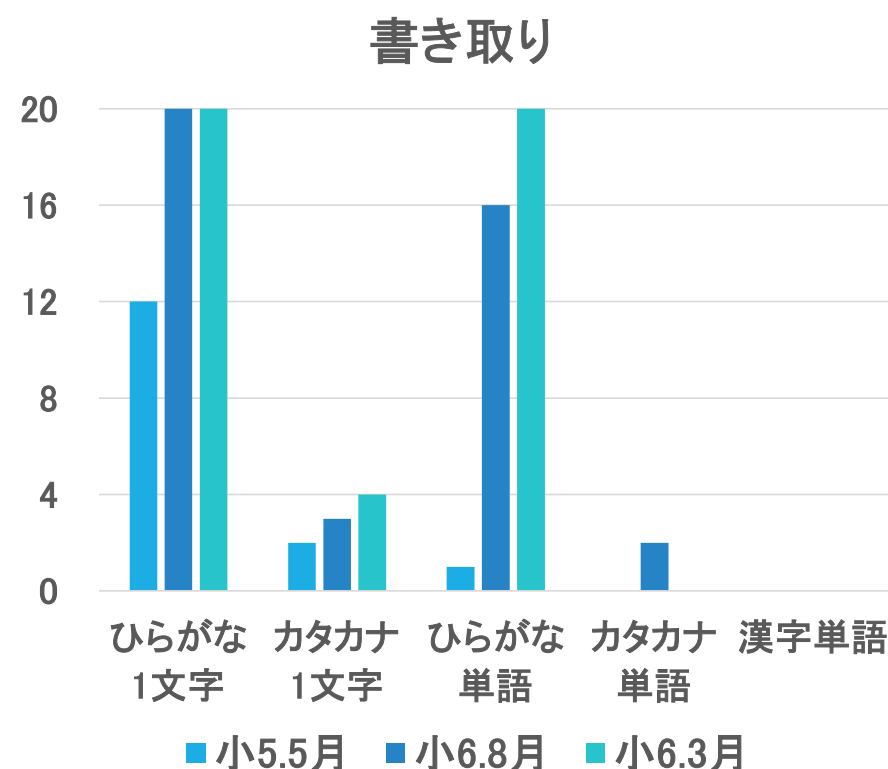


学習面の評価

〈初期 - 触読学習後 - 終了時〉

書き取り (STRAW-R)

- ひらがなは、特殊音節も書けるようになり、全問正答。
- カタカナは1文字単位で書けるものが増加。
- 6年生用の漢字単語は難しいが、低学年の漢字で書けるものが増加。



WISC-V 〈初期 - 終了時〉

WISC-V（主要指標）

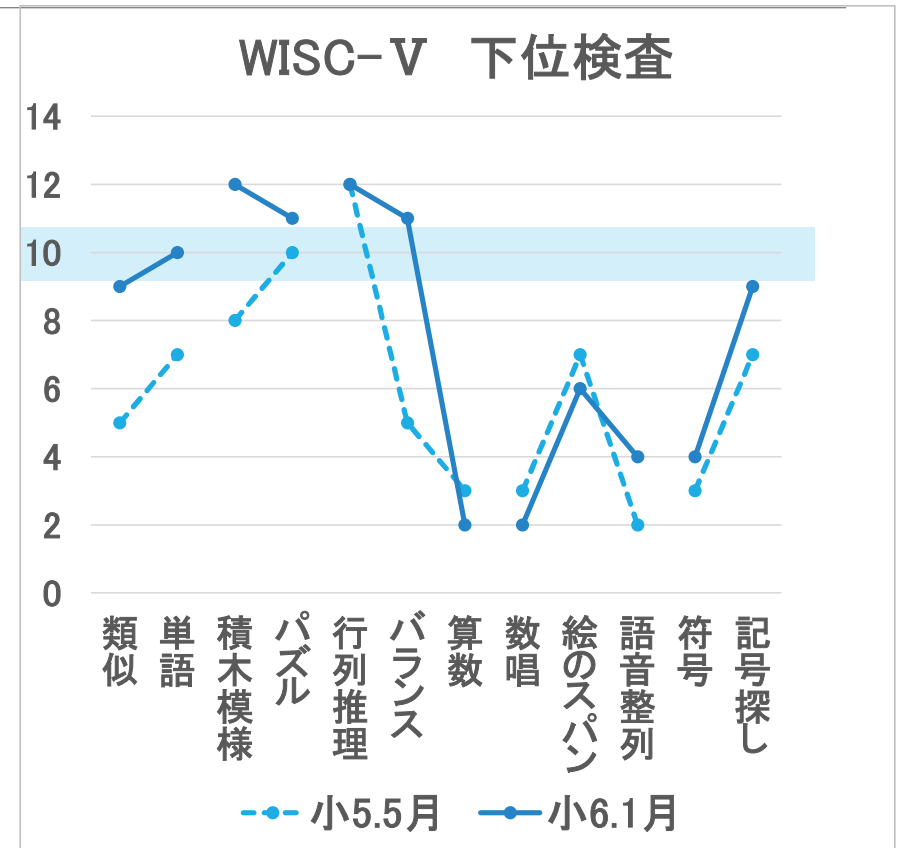
- ・全検査IQ が74から87へ向上。
- ※GAI(一般知的能力)は80から106へ。
- ・言語理解、視空間、流動性推理で合成得点が15以上向上。

	小5.5月	小6.1月
全検査	74	87
言語理解	78	97
視空間	94	109
流動性推理	91	110
ワーキングメモリ	71	66
処理速度	73	80

WISC-V 〈初期 - 終了時〉

WISC-V（下位検査）

- ・「類似」「単語」で、上位カテゴリー語等、適切な語彙を用いて回答。
- ・「積み木模様」では、難しい構成課題が可能となった。
- ・「バランス」は、倍数の考え方が可能に。



多職種での会議② 6年生1月〈介入1年8か月後〉

【学習状況、中学進学後の支援体制、進路等の相談】

- 参加者： 支援級担任、障がい者支援センター担当者、
放課後デイ担当者、小児科医師、ST、母
- 内容： 学習面では、国語と算数の意欲が向上。放課後デイで日誌が書けるようになったことなどを共有。
母が心配していた中学校入学後の支援体制、就職を見据えた高校の進路等の相談。

考察

- 触覚刺激が文字形態記憶と音韻想起の媒介として機能し、読み書き能力の改善をもたらした可能性がある。
- 読み能力の向上が、語彙の増加や、思考・推論能力の向上につながり、WISC-Vの結果が向上した可能性がある。
- 多職種で連携することにより、学習面だけでなく進路の相談など、包括的な支援を行うことができた。
- SLDの検査や診断、支援が受けられる場所が少ないため、地域で円滑に支援ができる体制の構築が必要。

まとめ

- 触覚刺激による多感覚学習を導入し、読み書きの流暢性や正確性が向上した症例を経験した。
- 医療、教育、福祉領域の連携会議で、医療的評価に基づく具体的な学習方法を提案し、多職種で協働し、伴走することができた。
- 今後の展望として、本症例のような、多職種での継続的支援モデルを他症例にも展開していきたい。

ご清聴ありがとうございました
